

# Meikai

明海大学は、国際未来社会で活躍する有為な人材の育成をめざします

NEWS LETTER

明海大学

毎月1日発行

編集・発行

企画 広報課

題字：創立者筆



笑顔で明海祭を盛り上げるチアリーディング部

オープニングセレモニーは新浦安駅から明海大学までのパレードで始まり、多くの参加団体が行進を盛り上げて華やかに祭の幕が開

は、開場前から大勢が詰めかけ、大人気のお笑いコンビ「サンドウィッチマン」がショートコントを披露すると会場は笑いの渦に包み込まれた。さらにステージでは、防具空手道部、チアリーディング部および軽音楽部アリーナをはじめ多数のクラブやサークルが出演。本部主催の企画など様々な催しが行われ、ステージ周辺は常時、大勢の人で賑わった。また、講義棟内では子どもたちに毎年人気のオリエンタリングをはじめ、屋外の第2グラウンドではフリーマーケットが催されるなど、地域住民と学生らが交流する姿が見られた。このほか、人気音楽グループ「FLOW」のラ

イフ、講演会、豪華商品が当たる「カラ×2君」など、数多くの魅力的な企画に会場は盛り上がりを見せた。また、学園祭実行委員会では、昨年に引き続きエコ活動にも力を入れ、ゴミの

冒頭に北原淳会長は、同窓会の現状を報告するとともに「今年から、ホスピタリティ・ツーリズム学部卒業生が同窓生に加わりました。この同窓会パーティーは同窓生が皆で顔を合わせ、数少ない貴重な機会なので楽しんでいただきたい」と述べた。

続いて、来賓として招待された小泉允副学長から「卒業して皆さんが社会で活躍している姿が在学生の原動力となっている。これからも明海大学の卒業生として胸を張って頑張ってほしい」と挨拶

久々の再会を喜ぶ同窓生たち

## 明海祭

# 「ピース」を見事に完成

## 来場者多数、平和の祭典盛り上がる

11月1日から3日にかけて浦安キャンパスで第22回学園祭（明海祭）が開催され、多くの学生や地域住民らで賑わった。今年のテーマは「ピース」。このテーマには、パズルのピースが一つひとつ組み合わさって完成するように、参加者全員が一丸となり、笑顔でピースをパフォーマンスできるような明海祭を創りあげたいという願い（「PEACE（平和）」の2つの意味が込められている。期間中は多くの参加者の笑顔で溢れる学園祭となった。

イフ、講演会、豪華商品が当たる「カラ×2君」など、数多くの魅力的な企画に会場は盛り上がりを見せた。また、学園祭実行委員会では、昨年に引き続きエコ活動にも力を入れ、ゴミの



会場が一体となった学生ライブ

分別を徹底。さらに、世界の子どもたちが安全で平和に暮らせるようにユニセフ募金を行った。地域住民からは「活気ある学生の皆さんから元気をもらった」との声が聞かれた。大塚優紀学園祭実行委員長（経済学科3年）は「明海祭は私たち実行委員だけでは決して創ることができませんが多くの方々の協力があり大成功に終わることができました」と感謝の言葉を語った。今年も多くの人に笑顔や喜び、そして感動を与えてくれた明海祭は、テーマである「ピース」を見事に完成させ、成功裏に幕を閉じた。

## 浦安キャンパス同窓会パーティー

### 卒業生の活躍が在学生の原動力

また、参加した同窓生らは「同窓会パーティーには毎年参加しているが、いつも旧友や恩師に会えるのを楽しみにしている」「卒業して数年経過するが、同窓会パーティーに参加すると大学時代に戻れたような気がする」と語り、楽しいひとときを過ごしていた。

もに「今年から、ホスピタリティ・ツーリズム学部卒業生が同窓生に加わりました。この同窓会パーティーは同窓生が皆で顔を合わせ、数少ない貴重な機会なので楽しんでいただきたい」と述べた。

浦安キャンパスFD講演会

問われる大学の教育能力

同志社大学の山田氏が講演

11月6日、浦安キャンパスFD委員会の主催により、FD講演会が開催され、教員ら約90人が参加した。講演には同志社大学大学院社会学研究科教授・教育開発センター所長の山田礼子

く、大学の教育能力そのものが問われる時代になりつつある」とし、学生に対する調査研究は、試験やレポートなどの直接評価だけでなく、学生の学習プロセスへの評価など間接評価と合わせて査定をしなければならぬことを論じた。また、入学時や在学中だけでなく、学生が大学で学んだ知識を卒業後どのように実社会で役立てているかも調査の一環とすることが本来の姿であるとし、入学時から卒業までの学生の情報を一

元化することの必要性を説明。加えて「日本の学生は大学での授業時間が長く、自宅学習時間が非常に少ない傾向にある。このことは単位の実質化ができていないということ、今後の大きな課題となる」と語った。浦安キャンパスFD委員

生を相手に、浦安の歴史、特異性、安全・安心対策、教育問題などについて分かりやすく説明したうえで、これからの地方自治は、協働と市民参加がキーワードであることを強調した。授業を受けた学生からは「街づくりを良いものにするためには、市民の街づくりに対する取り組みが大切だと知った。休日を返上してでも市民が街づくりに取り組むということは、上に立つ人を信頼し、皆で一緒に街づくりを行おうという気持ちを持ち持っている表れだ」と語った。

なわ、今後予定される講師陣は次のとおり。山村賢司氏（社団法人賃貸不動産管理業協会専務理事）、藤井繁子氏（株式会社リクルート住宅総研主任研究員）、市川宜克氏（社団法人全国宅地建物取引業協会連合会専務理事）、植松丘氏（東京海上不動産投資顧問株式会社代表取締役社長）、六井元一氏（株式会社ダイニチ代表取締役社長）、河野和也氏（UR都市機構ストック再生事業チーム）、関戸博高氏（スターツCAM株式会社代表取締役社長）（登壇順）。

経済学部FD講演会

11月12日、拓殖大学学長の渡辺利夫氏を講師に招き、経済学部FD講演会が浦安キャンパスで開催された。大学の全入時代が到来する中、学生の学力に低下が著しいとされている現状に対し、渡辺氏は「大学の

また、そのことを踏まえて「学部や学科の再編、カリキュラムの改編、シラバスの充実、学力に見合うテキストづくりなどに真剣に取り組むことが、大学に要求されている」と強調し、学生は教員に与えられた素材であると述べた。渡辺氏の講演は、実際に拓殖大学で取り組んでいる教員の授業評価などの資料に基づき進行され、参加した教員らの面持ちも終始真剣そのものであった。

この講演会を企画・運営した下田直樹経済学部長は「初年次教育や独自のテキストの作成など、拓殖大学の取り組みから学ぶことは多い。経済学部でも初年次教育のあり方を模索し、学士力向上と経済学部の発展に結びつけたい」と語った。

10月15日、不動産学部の授業科目「不動産ビジネスの経営戦略」に浦安市の松崎秀樹市長を講師に招き特別講義が行われた。同科目は不動産業界の第一線で活躍するビジネスパーソンや行政トップを講師に迎える

「首都であり、世界遺産でもあるリガを中心に、隣国からの外客誘致力を入れている。リガ国際空港はE

不動産ビジネスの経営戦略

松崎浦安市長が特別講義

地方自治は協働と市民参加がキーワード

松崎市長は、約80人の学

U諸国に向かう人のハブ空港として機能しており、今後の更なる発展に力を注ぎたい」と語った。また、「日本の多くの県に行ったが、自然・文化・食文化のどれにおいてもその土地特有のものが素晴らしい。京都・奈良のようにメジャーな観光地以外でも日本語以外の言語表記を増やすなどすると、これからも躍進していくだろう」と日本の外客誘致についても提言した。参加した学生からは「大使から具体的にラトビアの観光事情が聞け、貴重な体験をすることができた」との感想が寄せられ、世界的な視野で観光産業を考える良い機会となったようだ。



講演する渡辺氏



講演する松崎浦安市長



講演するヴァイヴァルス氏（左）

# 圧倒的な成長を体感!

## キャリアビルディングセミナー開催

11月3日から5日にかけての3日間、浦安キャンパス同窓会主催（共催：浦安キャンパス学生支援課（就職支援担当）、協力：アチーブメント株式会社）のキャリアビルディングセミナーが開催され、41人の学生が参加した。

このセミナーは、学生自身が自分のなりたい姿、核となる信念、夢や目標を明確にし、本気で打ち込めるものを見出すことを目的に、同窓会が行う在学生サ

ポートの一端として企画されたもので、今回が初めての開催となる。初日の冒頭、グループワークでは自己紹介、受講目的の明確化、「伝わる」プレゼンテーションの体感などが行われ、学生たちは初対面ながらも互いに声をかけ合い積極的に取り組んでいた。2日目には、周囲の人から見た自身の姿などについて確認した後、1分間プレゼンテーションを実施。トクテマが与えら

れ、自分が人生において大切にしたい気持ちや果たしたいことなどをグループメンバーに思いの限り訴えた。最終日には学生が自ら招待した親や友人、教職員などを前に自分の夢や生き方をプレゼンテーションし、多くの感動を呼び寄せた。参加学生からは「120%の満足感を得た」「自分を愛えることができ、自信がついた」「仲間たちと達成することの喜びを分かち合えた」などの感想が寄せられることも

に、成長を実感し、自信に満ちあふれている学生たちの頼もしい姿が見られた。今後の学生一人ひとりのさらなる飛躍を期待したい。



観衆の心を動かしたプレゼンテーション

## 「就職ガイダンスV」開催

11月14日、浦安キャンパスキャリアサポートセンターの主催で「就職ガイダンスV」が開催された。

当日は京葉線が一時不通になるほどの悪天候にもかかわらず269人の3年生が参加した。5回目を迎えた今回のガイダンスは、

## 業界研究セミナー開催

10月20日から23日の4日間と11月9日から13日の5日間、浦安キャンパスでキャリアサポートセンターの主催による「業界研究セミナー」が行われた。

このセミナーは、学生が就職活動の事前準備として志望する業界・企業・職種について一層の理解を深めることを目的としており、ホテル、航空、不動産、マスコミ、銀行、公務員などをはじめ、多様な15業界か

「これで安心! プロが教える面接攻略」と題し、講師に就職コンサルタントの福島直樹氏を招聘。面接の流れ、面接で聞かれる質問、人事が面接をする理由、面接室での立ち居振舞い、模擬面接の実演などを通して就職活動本番に向けてのスキルアップを行った。参加した学生からは「面接の疑似体験をして、質問に対する理解力や応答力を身に付ける必要はないことがわかり、背筋が伸びる思いがした」などの声が聞かれた。

ら計16社の参加・協力を得て開催されている。今年度は昨年を上回る延べ1243人の学生が参加した。企業の人事担当者から、業界の特徴や動向、求められる人材像、募集要項などについて学内で直接説明を受けることができるなどない機会に、各企業の会場教室には多くの参加者が詰め掛けた。



JAL エクスプレスの講演(右から2番目:佐高さん)

## H T学部 社長講義II

10月22日、株式会社JALウェイズ代表取締役社長の池田博氏による特別講義が行われた。これは、ホスピタリティ・ツーリズム業界の経営トップを講師に招き、オムニバス形式で行うHT学部の授業「特別講義II」(通称「社長講座」)の一環。当日はHT学部第一期生の斉藤理香子さんがJALウェイズのキャビン・アテンダント(CA)として講義に同席し、パワーポ

イントの進行を務めた。教室に詰め掛けた学生らは、目標とする会社のトップと実際に憧れの職業に就いた先輩を大きな拍手と羨望の眼差しで迎えた。

池田氏は、航空の都市間別市場規模では羽田・札幌間が917万人の利用があり世界1位であることな



池田氏(左)と斉藤さん

ど、日本は航空の先進国であることを強調。「これからの航空の世界はアジアがメインになる」と力強く述べた。

また、学生から「客室乗務員以外の女性の活躍の場はあるか」という質問に池田氏は「どこでも活躍できる。接客はもちろん、女性の企画も重要視している」と激励した。斉藤さんからも「こういった機会を大切に、色々な話を聞いて役立ててほしい」と学生に向けてメッセージが送られた。

参加した学生は「日本の航空・観光業界の様々な魅力が分かっただけでなく課

題についても知ることができた。また、斉藤さんの姿勢や振る舞いが素晴らしく、背筋を正される思いだった」と感想を語った。

11月13日に行われたJAL エクスプレスの講演ではHT学部第一期生でCAとして活躍中の佐高英里さんと、同社に内定を決め、来年春には佐高さんの後輩となるHT学部4年生2名が同席し、華を添えた。今年度は多くの学生が各企業の人事担当者に積極的に質問する姿が見受けられ、厳しい就職戦線に対する学生の意識の高まりが垣間見えた。

### 浦安キャンパス海外研修レポート②

前号に引き続き、参加学生と引率教員に感想を語ってもらった。

#### ◆◆◆

### 将来の目標が明確に

シークユーニバーシティのQJ(豪州)

市川理奈(日本語学科3年)

この研修に参加し、「日本語教員」になりたいという夢がより鮮明になりました。今回初めて教壇に立ちましたが、緊張で頭が真っ白になり授業中に空白の時間を作ってしまったことも

ありました。伝えようとしていたことが思うように表現できず、後悔が残る実習となりました。しかし、失敗してたくさんの方に気づくことができ、今では良かったとさえ思っています。後悔したり、落ち込んだりもしましたが、それでも日本語教員になりたいと強く思えることができました。現在、日本語学校でアシスタントをさせていたのですが、このオーストラリアでの研修が今後の私の「原点」になると思います。この経験をもとに、日々精進し、将来、立派な



現地の子供たちとも打ち解けた

#### 西川寛之講師(日本語学科)

09年度のオーストラリアのシークユーニバーシティにおける日本語教育実習

は、受け入れ大学の教員・スタッフの協力の下、非常に充実したものでした。大学での研修中は日本語教育実習のほか、2つの学びがありました。1つはホームステイ。日本の常識とは異なる文化をオーストラリアの家族の一員として過ごすことは非常に大きな学びとなったことと思います。もちろん、自分の持っている価値観が認められないという

重庄も感じたでしょうが、その重庄も日本ではできない価値のある経験でした。もう1つの学びは活水女子大学の学生と行う実習準備。オーストラリアで初めて会った学生と行う実習に向けた真剣な準備活動からは多くのことを学んだことと思います。メインの研修は、小学校での授業見学と実習や大学での授業見学と実習と充実したものでした。日本語学科ならではの研修ができたことを受け入れ先大学はもちろん本学の関係者の皆様にも深く感謝いたします。

### 語学力向上を実感

シークユーニバーシティのQJ(豪州)

三輪 亮(経済学科3年)

3週間と限られた短い期間でしたが、日本語はまったく通じず、ホストファミリーとコミュニケーションをとる際や自分の意思を表すときは全て英語なので最初は辛い毎日でしたが、日数が経ち徐々に環境にも慣れました。

また、オーストラリアの歴史や文化を学び、日本では決してできないことを数多く体験できたことに大き

な喜びを感じました。何より、自らの語学力が向上していることを実感できたことで、本当にこの研修に参加できて良かったと心から思いました。

異国での生活は新たな自分を見つける良い機会でした。語学や文化を学べたのはもちろんですが、自分にとって一番の収穫は友人の大切さを知ったことです。全てが限られた中

での生活で、友人と毎日励まし合い、協力して得た経験は私の大学生活で大きな財産です。



研修仲間たちと(左端が三輪さん)

#### 藤田 憲講師(経済学科)

今回のシークユーニバーシティでの奨学海外研修の大半は、バーバラ、キャロルの両ベラン女性教師が担当しました。オーストラリア生まれのバーバラ先生のイントネーションは、イギリス的でいわゆる「クイーンズ・イングリッシュ」でした。発音速度も比較的遅めで、バーバラ先生が研修前半を担当したことは、学生たちのリスニング能力向上に適していました。後半を担当したオース

トラリア牛肉業界の重鎮でもあるキャロル先生は、アメリカ出身で典型的な「アメリカン・イングリッシュ」を話します。バーバラ先生と比較した時のアクセントと速度の違いに、学生たちは戸惑ったようです。しかし個別に学生と話したところ、イギリス出身で受入責任者のマイク先生、ホストファミリーや現地ガイドなどの英語を含め、多様な「生きた英語」と接することができて充実していたというのが一致した感想でした。

### ホスピタリティに感動

ハワイ大学(米国)

山田真梨奈(HT学科3年)

8月24日から2週間のハワイ大学での特別講義と1週間の企業見学に参加しました。今年から研修生10人だけの海外研修でしたので、とまどいや不安もありました。しかし、皆それぞれが得意なことを生かして助け合っていたので、順調に楽しい3週間を過ごすことができました。また、交換留学生として明海大学に来学したジェシカとナターシャが、ハワイのいろいろなところを案内してく

たので、自分の知らないハワイを知ることもできました。ジェシカやナターシャだけでなく、2人のたくさんの方の友人や先生方とも仲良くなり、様々な国の人とコミュニケーションを取る楽しさを学びました。

また、観光立国であるハワイのホテル、航空



ホスピタリティ精神を学んだ

ボランティア特別講演会

E・ハンソン氏が活動事例を紹介

11月13日、浦安キャンパスで、タレントのイーデス・ハンソン氏を講師に迎え、総合教育センターヒューマン教育部門主催のボランティア特別講演会が開催された。

これは、学生のボランティア活動への関心と社会的視野を広げるとともに、ボランティア意識の高揚と参加意欲を高めることを目的として開催された。会場にはボランティアに関心のある学生、教職員および地域住民ら約200人が参加した。

ハンソン氏は現在、04年に世界遺産登録された「熊野古道」の通う和歌山県中辺路(なかへち)町(現・田辺市中辺路町)で「田舎暮らし」を送りながら、世界的な人権擁護団体「アムネスティ・インターナショナル」の特別顧問や「特定非営利活動(NPO)法人エフアジヤパン(Efajapan)」のベトナム・ラオス・カンボジアにおける「アジア子どもの家」の展

開と子供たちへの教育支援活動など、多方面で精力的な活動を続けている。

講演は、「ハンソン流・地球に優しい暮らし」

「方」・世界遺産・熊野古道に暮らして



イーデス・ハンソン氏

「と題し、ハンソン氏の実生活から見えてくる、水と人間の暮らしの関係や、環境保護に対する考え方、そこから生まれる身近なボランティア活動の事例などが語られた。

参加した学生は「ハンソン氏から、環境問題に取り組むということは、周りの人たちのことや自分の生活を考えることだと教わり、エコが身近に感じられた。これから積極的に取り組んでいきたい」と感想を語った。

日野壽憲ヒューマン教育部門長は「学生諸君の熱心な受講態度が印象的だった。彼らがこの講演会で啓発されたと実感している。学生諸君には、次は一步進めて、『自分に何ができる

か』を模索し実行に移して欲しい」と語った。

日本留学フェア(中国) 上海で本学を大きくアピール

10月24日、25日の2日間、



大勢の相談者で終始盛況だった本学ブース

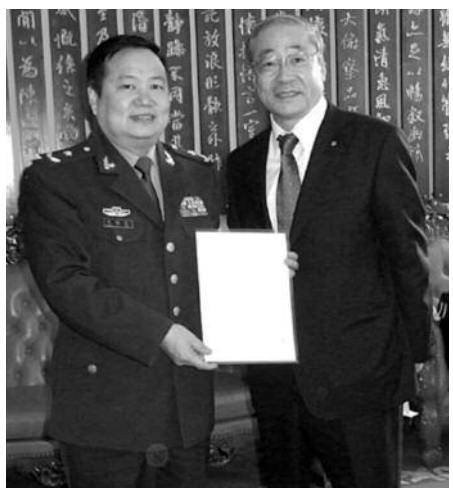
中国第四軍医大学が合併55周年記念式典に中島歯学部長出席

10月16日、本学歯学部姉妹校である中国第四軍医大学合併55周年記念式典に明海大学および朝日大学が招待され、本学からは中島

裕歯学部長が出席した。第四軍医大学は35年その前身である国立中央大医学院として創立され、その後、第四軍医大学と第五軍医大学が54年に合併し、現在の第四軍医大学となり本年度55周年を迎えた。記念式典に先立ち、中島

歯学部長らは樊代明(フアン・ダイミン)第四軍医大学長と趙敏民(ジャオ・イミン)口腔医学院長、大学

役職者らと歓談した。その席で中島歯学部長は趙院長に宮田脩理事長からの親書を手渡し、第四軍医大学・明海大学・朝日大学の3大学のさらなる交流関係の発展をめざすことを確認した。式典は、学長による関係式と軍医大学学生・職員らの軍事行進パレードと記



宮田理事長からの親書を手にする趙院長と中島歯学部長(右)

念式典、そして夜には軍医大学生らによるミュージカル劇が行われ、大学を挙げて55周年を祝った。中島歯学部長は今回の訪問を通じて「第四軍医大学の教員・

学生たちの明海・朝日大学との交流をさらに深めていきたい熱い気持ちを感じられた。今後の発展がとても楽しみであると共に大きな責任も感じる」と述べた。

中国から日本への留学を志望する者などを対象にした日本留学フェアが中国の上海で開催され、本学からは学事課(留学支援担当)スタッフらが説明者として出席した。これは、世界各国の教育機関を集めて行われる中国国際教育展覧会における日本セクションとして位置付けられ、独立行政法人日本学生支援機構が主催、中国教育国際交流協会(CEAIE)や在上海日本国総領事館などの協力・後援により実施されたもの。中国経済の中心地である国際都市上海での開催は、日本の大学のみならず、アメリカやヨーロッパ、オーストラリア、シンガポールと世界中の教育機関が集まり、大勢の留学希望者が参加した。日本からは国立・私立大学など昨年よりも7校多い33校が参加。本学ブースに訪れた相談者は教育内容や入試情報、大学の特色などについて熱心に質問を寄せた。日本語能力に不安を抱える相談者が多い中、別科をステップとして学部、大学院という進路を目指すことから別科に関する質問が最も多かった。開催と同時に本学ブースには大勢の相談者が詰めかけ、本学ブースは終始、活況を呈していた。

# 明海スポーツ MEIKAI SPORTS

## 空手道部

### 全日本大学空手道選手権大会

### 男子団体組手初のベスト16に

11月23日、大阪市中央体育館で行われた第53回全日本大学空手道選手権大会で本学体育会空手道部が男子団体組手でベスト16に入った。同部は11月1日に行われた第52回関東大学空手道選手権大会で男子がベスト8、女子がベスト16に入ったことから男女ともに全日本大学空手道選手権大会に出場した。(男子は3年連続出場)



初のベスト16に進出

男子組手の試合は1回戦、大阪大学と対戦し4-1で勝利。続く2回戦は九州地区1位の福岡大学と対戦。2-2となったがポイント差で勝利した。3回戦は先の関東大学空手道選手権大会で敗れている帝京大学(関東1位)と再び対戦。優勝候補筆頭を相手に果敢に挑み0-5で敗れたが、本大会で初のベスト16入りを果たした(優勝は帝京)

京大学)。女子団体組手は1回戦、東北福祉大学に3-0で勝利し、2回戦の同志社大学に0-3で敗れた。

## サッカー部

### 関東大学サッカー大会

### 2部リーグ昇格ならず

11月2日から22日にかけて平成21年度第42回関東大学サッカー大会が行われ、本学体育会サッカー部が予選グループを1位で通過したものの、昇格決定戦で関東学院大学(神奈川県代表)に敗れ、関東大学サッカーリーグ2部リーグへの昇格を果たせなかった。

同大会には8チームが出場。AグループとBグループに4チームごとに分かれ、各グループの上位2チームが昇格決定戦進出となる。本学は同大会に2年連続で千葉県代表として進出しているものの、あと一步のところ昇格を



最後まで力を振り絞った

逃してきた。本学体育会サッカー部はグループ予選1回戦の文教大学戦を3-0、2、続く立正大学戦を1-0、関東学院大学戦を5-0で勝利し1位で通過、昇格決定戦に進出した。昇格決定戦は11月22日に千葉県総運動場で行われた。小雨が降る中で始まった関東学院大学との決戦。前半に先制され、本学も攻勢に出るものの関東学院大学の堅い守りにゴールを割ることができず、後半にも得点を許し、0-3で敗れた。

本学サッカー部は熱い応援に支えられ、選手・スタッフが一丸となって最後まで諦めることなく戦った。この悔しさをバネにさらなる飛躍を遂げてほしい。

## ヨット部

### 千葉県大学生ヨット選手権大会2連覇

### 全日本470選手権大会出場

11月15日、稲毛ヨットハーバーで行われた第9回千葉県大学生ヨット選手権大会で、本学体育会ヨット部が昨年に続いて総合優勝を果たした。この大会は千葉県セーリング連盟の公式戦で、県連加盟校のうち本学をはじめ千葉大学、千葉大学医学部、順天堂大学医学部、東京歯科大学の5大学が参加した。レースは各大学3艇出場し、2レース行われ、1位、2位、3位を独占。連覇を達成した。

続いて、11月19日から23日まで福岡市ヨットハーバーで第38回全日本470選手権大会が行われた。この大会は、大学生だけではなく高校生やプロなどの参加もあり国内最高峰の大会。本学は今年7月に行われた関東470選手権大会兼全日本470選手権大会予選の結果により、関東代表として3艇6人が、また金子晃也選手が愛知工業大学の選手とペアとなり中部代表として出場した。

予選には61艇出場し、丹羽夏海選手(経済学科1年)・宮崎俊介選手(不動産学科1年)ペアが36位、山口貴之選手(経済学科1年)・宮崎達也選手(経済学科1年)ペアが41位、田上大輔選手(英米語学科3年)・大田徹選手(不動産学科1年)ペアが53位、金子晃也選手(不動産学科1年)・愛知工業大学選手ペアが59



上位を独占し連覇を達成

位となり、上位10チームが出場できる決勝シリーズへの進出とはならなかった。しかし、1年生主体の編成で、一流の選手と競い合ったことは今後の糧となるに違いない。

## オータムフェスティバル開催

10月31日、11月1日、3日の3日間、毎年恒例のオータムフェスティバルが浦安キヤンパスで開催された(1日、3日は明海祭と同時開催)。

このフェスティバルはオーファンカレッジで開講されている各講座の受講生が日ごろの練習の成果を発表する場で、学園祭のメインイベントとして定着したオータムフェスティバル。明海祭の雰囲気や華やかなものに、多くの人々に文化的な魅力を紹介した。

テージでは、ゴスペルやダンスなどを披露し、大勢の観客を魅了した。オープンカレッジ内では、書道や絵てがみの作品展示、入館者へお菓子を振舞うハロウィン企画、色彩講座講師による「パーソナルカラーチェック」などが行われた。

地域と大学とを結ぶ一大イベントとして定着したオータムフェスティバル。明海祭の雰囲気や華やかなものに、多くの人々に文化的な魅力を紹介した。

# グローバル視点の「Route16」に支援金

## 「夢プロジェクト」の合格団体発表

11月16日、浦安キャンパス同窓会の企画で実施された第1回「夢プロジェクト」の合格団体が同窓会事務局から発表された。このプロジェクトは、明海大学生が自由な発想で取り組む「夢のあるキャンパスライフの創造」をテーマに、学生の可能性への挑戦を支援し、キャンパスの活性化を図ることを目的とした初めての企画。

プロジェクトへの参加は、明海大学浦安キャンパス学生で5人以上から構成されたグループとし、募集は、09年9月1日から10月6日まで行われた。第1次審査の書類審査を通過した企画に対し、学園祭期間中の11月3日にプレゼンテーション形式で第2次審査を実施。最も優れた企画グループ1組に対し100万円（上限）の支援金が贈られる。最終選考の第2次審査には4組が選ばれ、11月3日にプレゼンテーションを行い、厳正な審査の結果、鈴木勇太さん、足立太希さん、乾清香さん、齋藤奏さん（以上HT学科2年）、小泉英治さん（不動産学科2年）の5人から成る「Route16」が合格団体として選ばれた。プロジェクト名は「和香」で、企画内容は「DISCOVER JAPAN」。新しい観光地を発見し、全国の景色や新たな名所をまとめた雑誌を制作するともに最終的には韓国と日本で開催される世界旅行博に出展し日本の良さをアピールするという壮大な計画だ。

採用の理由について審査委員から、「夢の達成への強い気持ち」「企画にスケールがあり、自身の満足だけでなく訴求力を持つグローバルな視点がある」「夢プロジェクトの意義と当該団体の企画がマッチしている」などが挙げられた。「Route16」代表の鈴木さんは「この夢プロジェクトに採用されたのは本当に感激です。同窓会の方々などのお力も借り、このプロジェクトを成功させるために全力で取り組んでいきます」と語った。

## 屋内消火栓

# 隊員の真剣な姿に感動!!

10月29日、運動公園球技場駐車場第19回事業所自衛消防隊屋内消火栓操法大会が行われ、本学浦安キャンパス職員で組織された自衛消防隊が参加した。この大会には、市内22事業所の自衛消防隊が参加し、操法員の動きの美しさや放水し火点に見立てた標的を倒すまでのタイムなどを競い合った。

本学自衛消防隊は、小野原一（学生支援課・指揮者）

者）、金子直人（学事課・1番員）、菅澤誠（学事課・2番員）、三橋友一（入試課・3番員）、木原功仁（庶務課・補助員）の5人で組織され、この日のために業務の合間をぬって訓練を重ねていた。

緊張感がみなぎる中、大会は前回優勝のサンルートプラザ東京の操法から始まり、13番目に本学が登場。円陣を組んで気合を入れると、小野原指揮者の号令により操法が始まった。機敏に動く隊員たちが、的確な操法で標的を見事に倒すと応援に駆けつけた職員たちからも感嘆の声が上がった。全ての操法を終えると、隊員たちは緊張感から解き放たれた安堵感とこれまでに受協することなく訓練に打ち込み、その成果を発揮した充実感で満ち溢れていた。最終結果で本学は6位となり入賞はならなかったものの、職場内の防災意識が高まる機会となったとともに、隊員たちの真剣な姿に感動をしたという声が多く聞かれ、職員の一団の醸成に大きく貢献した。



全力を尽くした隊員たち（左から菅澤、金子、小野原、三橋、木原）

## 09年第9回住宅課題賞

東京建築士会が開催している09年度第9回住宅課題賞入選作品展に、本学から松岡義尚さん（不動産学科3年）の作品「十人十色／住む人によって変わる家」が出展された。同作品展は、東京圏に位置する大学の建築系学科などで行われている設計・製図の授業の中から、住宅課題における優秀作品のうち各校1作品を推薦し、それらを一堂に集め



松岡さん

た。松岡さんの作品は、「設計・製図Ⅱ」の授業を担当する蜂屋景二准教授、三村大介講師、鈴木陽子講師の推薦により出展された。参加したのは33大学43学科で43点の作品の中から9点が「優秀賞」として

## クリンキャンペーン

浦安キャンパスでは11月のクリンキャンペーン月間を迎え、11月9日から27日までの3週間、多数の学生や教職員が学内外の美化に取り組んだ。学生と教職員が一体となって行われるこの活動は、学内やキャンパス周辺での分煙ルールの徹底、吸殻・ゴミの投げ捨てや歩行喫煙、信号無視などの路上歩行マナー向上の呼びかけを行うとともに清掃活動を展開。参加した学生からは、「分煙マナーな

どが浸透してきていると思うが、依然としてタバコのいケースが目立つ。マナー改善を呼びかけるとともに、自分自身、改めてマナーについて考える機会になった」と語った。大学を挙げての地域貢献活動として年々定着してきており、この活動を通じて、日頃から一人ひとりがマナーを守り、快適な環境づくりを心がけたい。



美化活動で快適な環境を目指す

# 英語スピーチコンテスト 最優秀賞に陸英善さん

11月1日、学園祭初日の浦安キャンパスで外国語学部英米語学科主催の「英語スピーチコンテスト」が行われた。このコンテストは、本学学生が英語で積極的に自分の意見を述べる機会を設けることを目的に昨年からスタートし、今回が2回目となる。父母や友人の応援を受けて、7人の参加者（1年生2人、2年生3人、3年生2人）が登場し、スピーチを披露した。審査委員の厳正な審査の結果、「Rapists' names and faces should be publicized」を発表した陸英善さん（英米語学科2年）が最優秀賞に輝き、トロフィーと賞状が授与された。2位は河野愛さん（同2年）、3位は佐藤菜美子さん（同1年）が受賞。また当日は、オーストラリアのシークューユニバーシティ（CQU）からの交換留学生であるクリス・ディッカー



最優秀賞を受賞した陸英善さん

さんがゲストスピーカーとして、日本とオーストラリアの文化についてスピーチを披露した。原口庄輔外国語学部長は「レベルの高いスピーチだった。コンテストで積極的に自分の意見を発信することは、出場者に

# 浦安キャンパス教育後援会 静岡・福岡で地区教育懇談会を開催

10月25日、浦安キャンパス教育後援会の東海地区教育懇談会が、静岡市内のホテルで開催され、父母、教職員、教育後援会役員など46人が参加した。

全体会では、印南彰雄副会長の挨拶の後、安井利一学長から「大学と教育後援会が車の両輪となって、学生達が自己実現を図るための手助けと、専門教育・人



個人面談の様子(福岡会場)

間教育をしっかり行っていきたい」との挨拶があり、続いて鈴木洋州学生支援課長から、本年度入試、海外留学・海外研修派遣やインターンシップ・就職支援計画など明海大学の近況が報告された。

また、11月8日には九州地区教育懇談会が、福岡市内のホテルで開催され、父母、教職員、教育後援会役員など30人が参加した。

# IESS生らが趣向を凝らして 日本語発表交流会

11月17日、浦安キャンパスで別科生、海外協定校の特別聴講生、全米大学連盟特別聴講生（以下IESS生）による日本語発表交流会が行われ、会場の2006大講義室には約350人が詰め掛けた。これは、授業で学んでいる日本語、日本文化について発表する



流暢な日本語で会場を魅了

とって今後の人生の糧にならんとする。今後より一層意義のあるコンテストに発展させていきたいと語った。

発表の場を設けるとともに日本人学生との相互交流を深めることを目的に実施している。発表した10組の、それぞれ趣向を凝らしたユーモアあふれる演技や発表などに会場は笑いに包まれ、彼らの日本語の高さが聴衆を魅了した。IESS生のヴァクター・ポープさんは「1週間前から今日のために皆で練習を重ねてきたので、本番では楽しく演技することができた。授業で学んでいる日本語を演技に採り入れることができ充実した発表会となった」と感想を語った。

# 東日本漢語教師協 会が設立 劉勳寧教授が副会 長に就任

10月17日、「東日本漢語教師協会」の設立大会が東京で開かれ、本学外国語学部の劉勳寧教授が副会長に就任した。この協会は、中国語教師間の相互交流、情報交換および親睦を図るとともに、日本における中国

語教育の拡大・発展・充実に貢献することを目的に創立された。設立発起人メンバーは長年、中国語教育に従事している専門家。会員は大学の専任・非常勤の教員だけでなく高校教諭や民間学校の教師も参加する予定となっている。同会が会員同士の交流の場となり、日本における中国語教育のさらなる促進に貢献することが期待される。

# 「秋の叙勲」で内海 名誉教授が受章

11月3日付けで発令された「秋の叙勲」で、本学から内海順夫名誉教授が瑞宝中授章の叙勲を受けた。

内海名誉教授は、本学の発展に尽力し、長年の教育・研究などへの功績と学術振興の発展に寄与した功績などが評価された。



内海名誉教授

57年大阪歯科大学歯学部卒業。71年に本学教授に就任。98年本学名誉教授。口腔病理学。

# 新春餅つき大会のお知らせ

日時 2010年1月9日(土) 12時~15時  
場所 明海大学メインゲート付近(雨天時:30周年記念館前)  
※お餅がなくなり次第、終了とさせていただきます。  
※どなたでも気軽にご参加いただけます。(無料)  
※本学学生、教職員のお手伝いを募集しております。詳しくは学事課(オープンカレッジ担当)まで、ご連絡ください。  
Tel 047-355-5115 Fax 047-355-5113

# 人事往来

浦安キャンパス  
退職 10月31日付  
学事課 伊藤 知

# 12月の行事予定

- 3日(木) 外国語/HT学部教授会  
応用言語学研究科委員会
- 10日(木) 経済/不動産学部教授会  
経済学/不動産学研究科委員会
- 16日(水) 歯学部教授会/歯学研究科委員会
- 17日(木) 応用言語学/不動産学研究科委員会
- 22日(火) 明友会懇親会

明海大学企画広報課/古家 磯見  
Tel 047-355-1101  
FAX 047-355-1000  
Eメール kohn99@meikai.ac.jp  
〒419-0287 静岡県沼津市  
〒419-0287 静岡県沼津市

※この用紙は100%再生紙を使用しています。